

Good Job!! Nagasaki



グッジョブ!!
長崎県

今月のグッジョブ

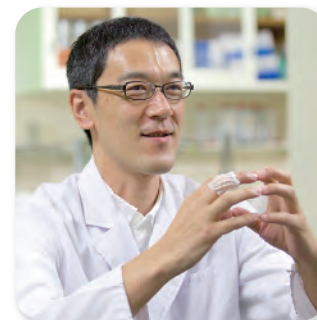
〔肉用牛改良センター〕

全国トップクラスの種雄牛を育成、
おいしい長崎和牛の原点



種畜班 石井信一 さん

種雄牛の飼育管理で重要なことは、健康管理、そして雄牛をロープ1本で制御できるように「調教」する技術です。最初は言うことを聞かなかった牛たちが、飼育していく中で大人しくなっていくのを見ると、我が子が成長したときのようなうれしさを感じます。今後も愛情を持って日々の業務に励みたいです



改良技術班 井上哲郎さん

週に2回採取される精液を4回にわたって厳しく検査しています。優秀な種雄牛から採取した貴重な精液を、いかに良い品質の状態で農家の方に使っていただくか、やりがいがある一方で、常にプレッシャーも感じています。最先端技術を駆使しながら、日本一の肉用牛を育成するために頑張ります

優秀な種雄牛を育て、
日本一の長崎和牛を

田平天主堂から徒歩1分の場所にある肉用牛改良センター。緑に囲まれた約25ヘクタールの敷地に、約150頭の牛が飼育され、そのうち24頭が種雄牛(品質の高い肉用牛を得るために精子を提供する雄牛)です。

「当センターでは県内の種雄牛を集中管理し、優秀な肉用牛をつくるための改良を行っています。平成24年に本県で開催された和牛のオリンピックとも言われる「全国和牛能力共進会」で内閣総理大臣賞を受賞したのをはじめ、全国トップクラスの種雄牛を育成しています。今年4月には候補種雄牛の能力を判定するために行う検定で、当センターの『勝乃幸』号が肉の霜降り度を示す能力で全国1位の成績を収めました」と笑顔で話してくれたのは松永孝三所長です。

センターでは、職員が県内全域を巡回し選定した優秀な雄の子牛を購入し育てます。そしてその牛の発育、さらにはその牛の子どもの肉質などの調査も行い、最終的にはこの成績により選んだ優秀な種雄牛を育てます。そのえりすぐりの種雄牛から採取した高品質の精液を凍結し、吉岐や対馬、五島などを含む県

内全域の畜産農家へ年間約4万本が渡されています。

「畜産に関するさまざまな情報を収集・分析して肉用牛の改良に活用しているほか、新技術の実証と活用、経営安定のための技術指導など、より良い肉用牛の育成に関するあらゆる業務を行っています」と松永所長。県内の畜産農家が将来に希望が持てる肉用牛経営ができるよう、5年後、10年後を見据えた優秀な種雄牛をつくりあげていくことを目標に、職員一丸となって頑張っています。



来年、宮城県で開催される全国和牛能力共進会では、平成24年の大会より上位入賞を目指し頑張っています！前列の左から3番目が松永所長



全国トップクラスの種雄牛を育成する仕事にGood Job!!

採取した精液の検査風景。1回の採取で約100本が生産され、マイナス196℃の液体窒素で凍結保存されます



堂々とした姿を見せる「勝乃幸」号

長崎県は全国有数の肉用牛の産地です。「長崎和牛」のさらなる振興には、優れた種雄牛の育成と畜産農家や地域関係者と連携した生産体制の強化が必要です。これからも、県内生産者の所得向上につながるよう肉用牛の品質向上に努め、日本一の産地を目指して取り組んでいきます。

長崎県知事 中村法道

